

2022年12月期（第109期） 第3四半期 決算概要資料

日華化学株式会社
(証券コード：4463)

2022年10月27日

1. 2022年度 第3四半期業績

2022年度 第3四半期累計 経営環境	4
2022年度 第3四半期累計 決算サマリー	5
セグメント別業績	6
売上高 増減要因(対前年)	7
営業利益 増減要因(対前年/概算)	8
経常利益 増減要因(対前年)	9
特別損益	10
化学品セグメント 業績詳細	11
化粧品セグメント 業績詳細	12
主な経営指標	13
2022年度 第3四半期累計 決算総括	14

2. 2022年度 通期業績・配当予想

2022年度 通期業績・配当予想	16
セグメント別 通期業績予想	17

3. 参考情報

会社概要	19
------	----

1. 2022年度 第3四半期 業績

原料高騰に加え想定以上の円安進行が続き、資材等のコストが上昇加速した中、総じて堅調に推移し、半導体ウェハ分野は好調だった。3Q(7-9月)では、低調だった日米の自動車販売が回復傾向となったが、海外繊維加工が減速してきた

■ 事業分野外部環境等（新型コロナウイルス感染症の影響含む）

繊維加工	日本		消費動向の一部回復によりスポーツアウター系は堅調もファッション系は依然厳しい状況 衛生材料・産業資材分野は堅調
	海外		欧米アパレル向けオーダーが堅調に推移していたが、3Qでは欧米のインフレによるアパレル買い控えの影響により、好調だった生産拠点のアセアン、西南アジアも含め減速してきた
自動車	日本・海外		販売 1-9月前年同期比/日本(軽含)△9.6% (△30.5万台)、中国+14.4% (+213.2万台)、米国(小型トラック含)△13.2% (△153.9万台)で3Qだけでは日本は4%増、中国は3Qは37%増、米国は1%減
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙は需要減継続、家庭紙・衛生紙は横ばい、板紙はEC需要もあり堅調継続 資材高騰を受けメーカー各社が継続的な値上げ実施中
クリーニング	日本		コロナ第7波で再び在宅勤務が増えビジネスウェアのクリーニング需要は前年並み 宿泊者数は回復傾向が続き前年同期比5割増。飲食は回復基調だったが第7波で客数伸び悩み
半導体ウェハ	日本		半導体ウェハの中長期需要はプラス成長予測となっているが、スマホを中心としたメモリー分野では在庫調整から一時的な低調要素が見えはじめている
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤、手指消毒剤/前年の需要に比して落ち着きを見せた 医療用洗浄剤/病院外来・入院患者数は前年同期比で大きな変化なし
ヘアケア化粧品	日本		コロナ第7波の影響等もあり来店サイクルがさらに長期化し来店客数は依然BC水準には戻らず、客単価上昇で補うも国内美容サロン市場は停滞。ODM需要は想定以下の状況が続く
	海外		韓国/withコロナ政策への転換により来店客数も回復の兆しが見られたが、急激な物価高継続による消費マインド冷え込みで美容室来店頻度減少が続いた
数値指標 (前年比)	為替		期中平均 円/米ドル・128.03円で17.9%円安、中国元15.4%円安、ウォン5.1%円安
	国産ナフサ	-	1Q/64,600円(前年同期比+66%)、2Q/86,100円(前年同期比+81%) 3Q予想/80,600円(前年同期比+51%)、4Q予想/72,200円(前年同期比+18.9%)

原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や価格改定などによりカバーしたことに加え、円安の影響もあり増収増益(経常利益、営業利益)となったが、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年の固定資産売却益の影響で減益となった
 なお、3Q(7-9月)ではさらに円安が進んだ事等もあり大幅な増収増益となった

単位：百万円

	2021年度 第3四半期 (旧基準)	2021年度 第3四半期 (新基準)	2022年度 第3四半期 (新基準)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	35,909	34,548	38,233	+3,684	+10.7%
営業利益 (営業利益率)	2,177 6.1%	2,121 6.1%	2,315 6.1%	+194	+9.2%
経常利益	2,399	2,399	2,929	+530	+22.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,308	2,308	1,871	△436	△18.9%

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度第3四半期(新基準)における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

化学品事業は、原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や価格改定などでカバーしたことに加え、円安の影響もあり増収増益となった。化粧品事業は、主に前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった関係で減収減益となった。化学品、化粧品とも7-9月では2Q比、前年3Q比共に増収増益となった

単位：百万円

セグメント	2021年度 第3四半期 (旧基準)		2021年度 第3四半期 (新基準)		2022年度 第3四半期 (新基準)		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	25,040	1,345	24,219	1,333	27,528	1,562	+3,308	+13.7%	+229	+17.2%
化粧品	10,634	2,161	10,094	2,117	9,902	2,008	△192	△1.9%	△109	△5.2%
その他	234	47	234	47	803	67	+568	+242.3%	+19	+42.3%
消去等	-	-1,376	-	-1,376	-	-1,323	-	-	+53	-
合計	35,909	2,177	34,548	2,121	38,233	2,315	+3,684	+10.7%	+194	+9.2%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度第3四半期（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

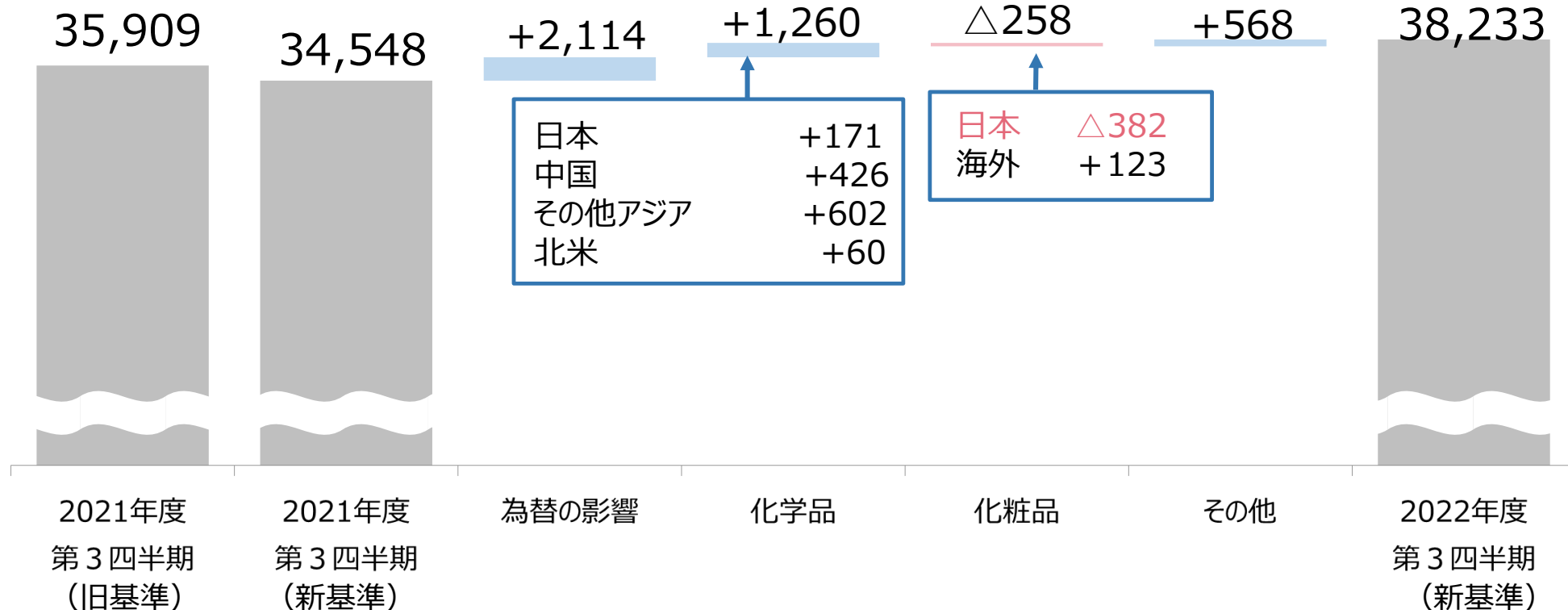
売上高 増減要因 (対前年)

円安による影響で+21.1億円、化学品事業で+12.6億円の増収、化粧品事業で△2.5億円の減収となった
 化学品は国内外共に増収に転じ、化粧品は国内での減収額が減少した

単位：円

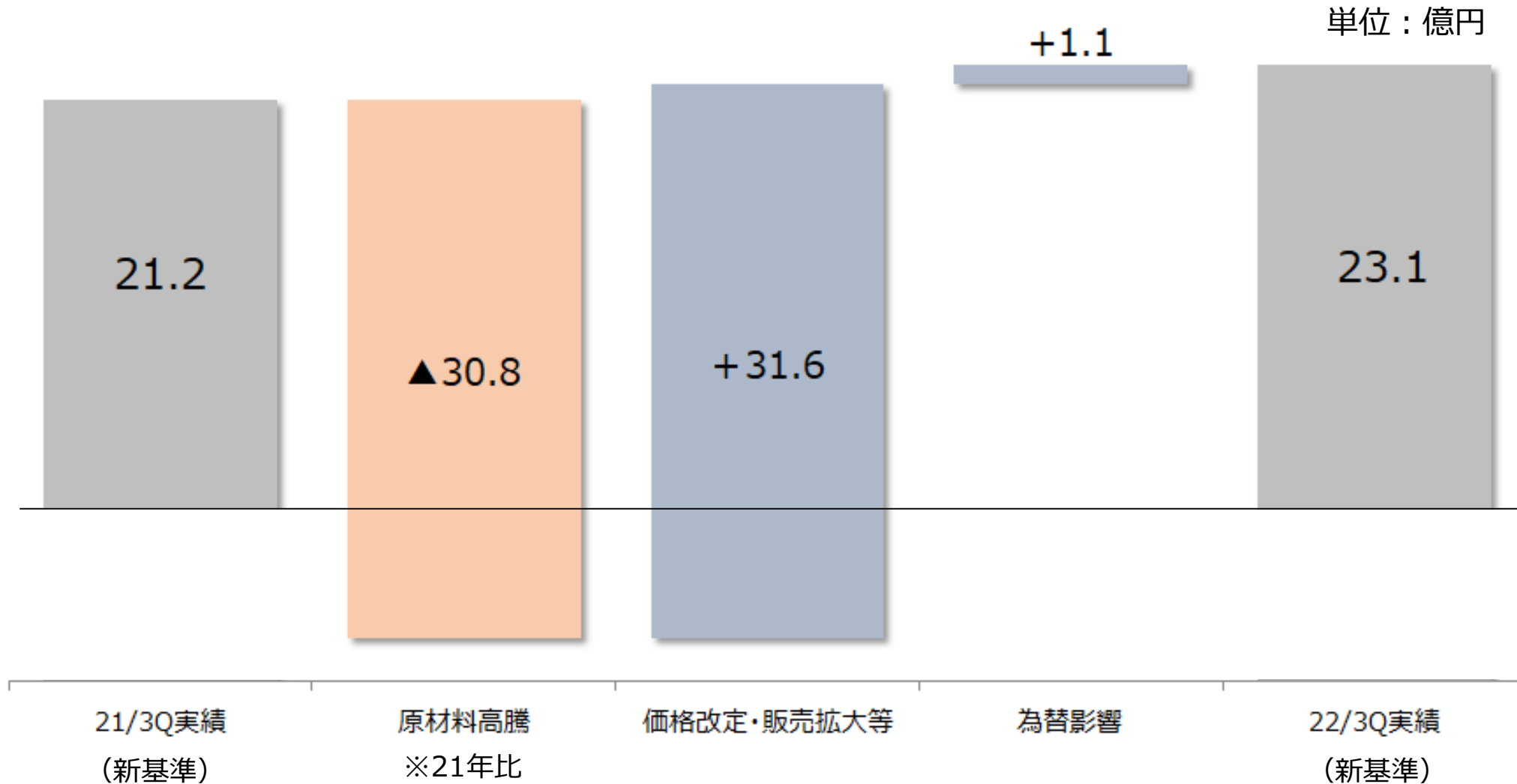
期間為替	2021年度 第3四半期	2022年度 第3四半期	備考
米ドル	108.56	128.03	17.9%円安
中国元	16.77	19.35	15.4%円安

単位：百万円



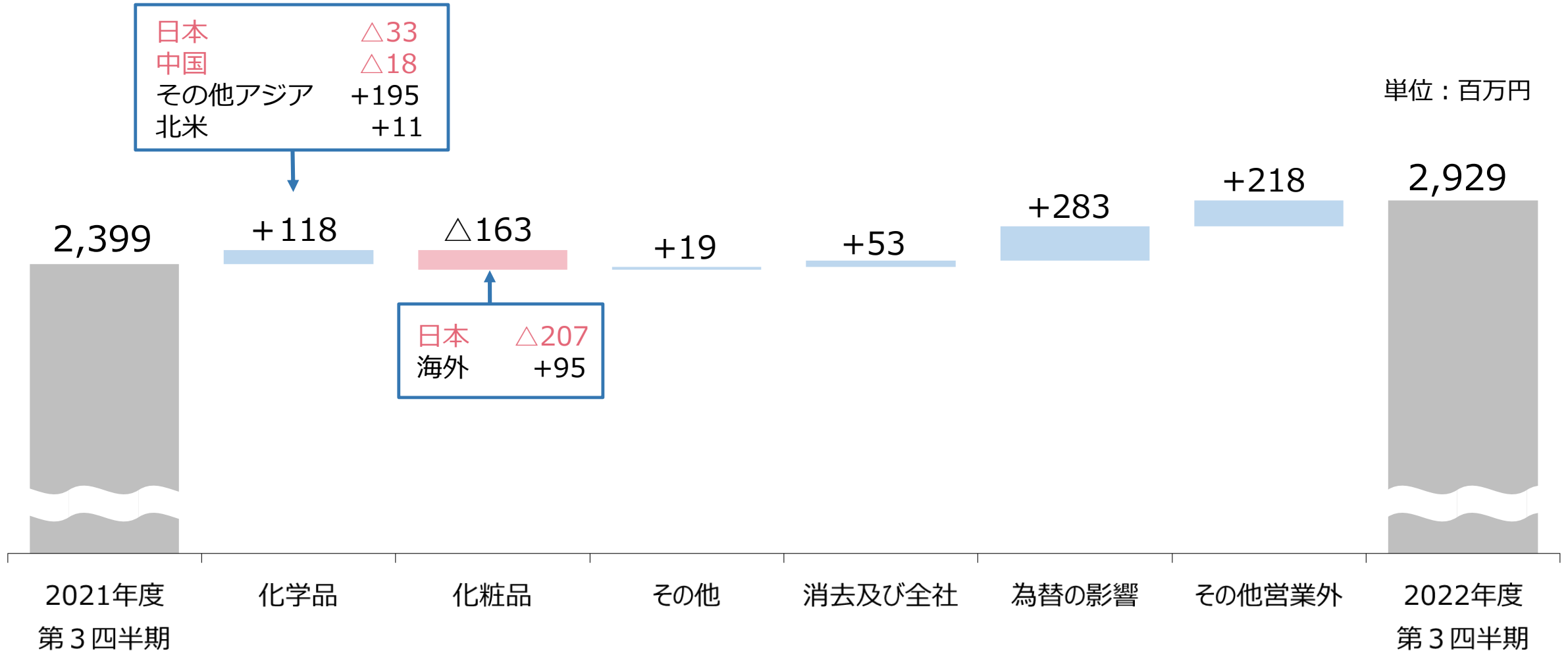
営業利益 増減要因 (対前年/概算)

原材料高騰の影響は大きかったが、原価アップへの対応、販売拡大等により営業利益増となった



経常利益 増減要因 (対前年)

化学品事業で+1.1億円、為替の影響で+2.8億円の増益の一方、化粧品事業で△1.6億円の減益となった。化学品はその他アジアで大幅増益となり日本は2Q比で減益額が減少し、化粧品は国内で大幅減益も2Q比で海外の増益額が伸長した



前年は1Qにおける固定資産売却益が大きかったため、特別利益が大幅減となった

	2021年度 第3四半期	2022年度 第3四半期	増減額	増減率
特別利益	716	146	△570	△79.6%
特別損失	8	28	+20	+229.9%

2021年3Q累計

特別利益／香港日華化学 固定資産売却益等

特別損失／日華化学 投資有価証券評価損

2022年3Q累計

特別利益／補助金等

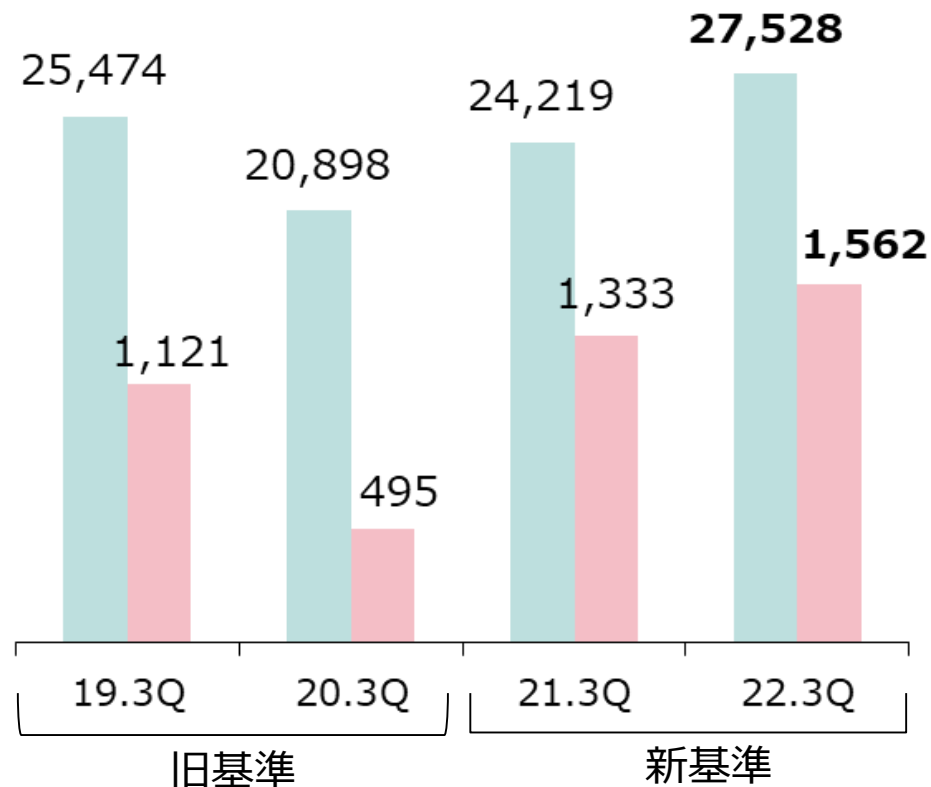
特別損失／日華化学 投資有価証券評価損

コロナ禍の影響が継続した中、一部市場を除き需要回復が見られ、販売拡大や価格改定、円安の影響で増収となり、地域別では日本も増収に転じた。また、ウクライナ情勢などによる原材料価格高騰があったものの、価格改定に加えて、販売拡大、経費抑制、円安の影響で増益となったが、海外の繊維化学品分野で需要の落ち込みが見られてきた

業績推移

単位：百万円

■ 売上高 ■ セグメント利益



	新基準	新基準		
地域別売上高	21.3Q	22.3Q	増減額	増減率
日 本	10,991	11,163	+171	+1.6%
中国	4,771	6,068	+1,297	+27.2%
その他アジア	7,521	9,103	+1,581	+21.0%
北 米	935	1,192	+257	+27.5%
合 計	24,219	27,528	+3,308	+13.7%

※為替影響 +2,047百万円

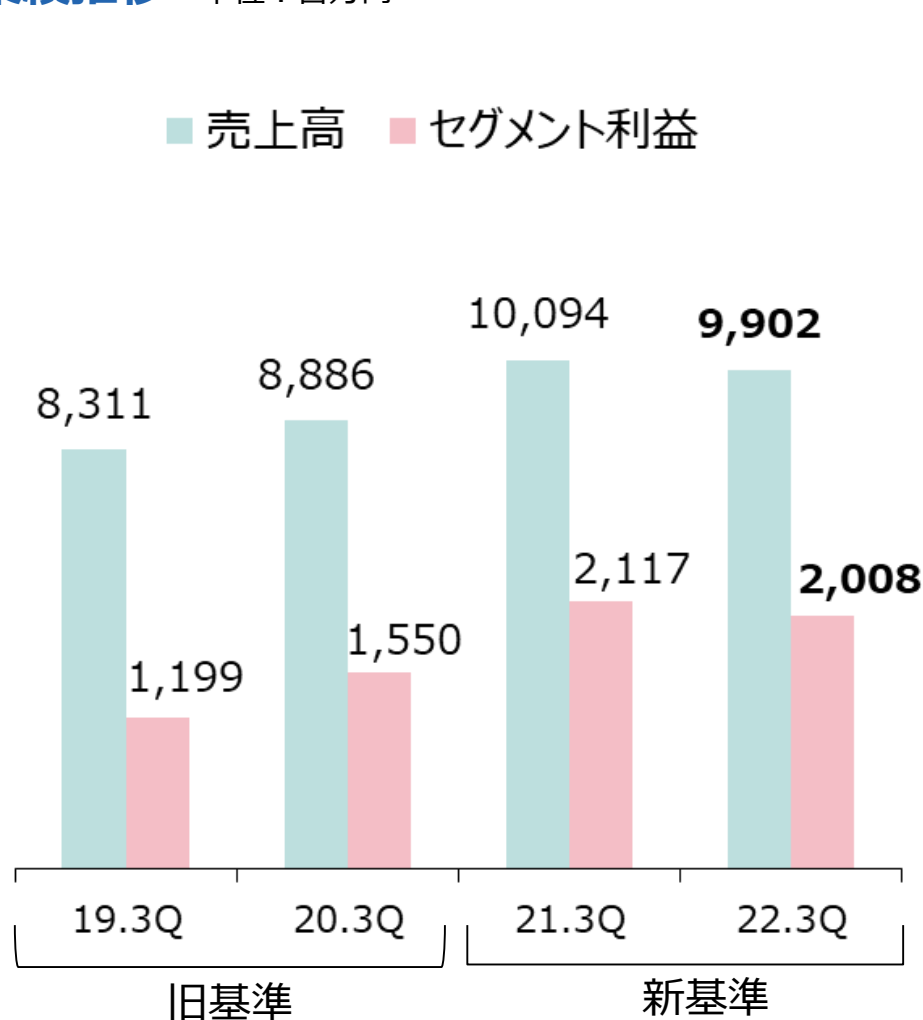
前期比概要

1. 繊維化学品分野／欧米向けアパレル加工分野堅調だったが需要の落ち込みが見られてきた
2. 撥水剤、先端材料向け堅調 ※バイノール除く
3. 中国／ロックダウンの影響を受けたものの新規獲得等で販売拡大
4. 各国／対アジア通貨高による増収、増益
5. 半導体ウエハ加工薬剤／半導体加工市況好調で海外向けも伸長し販売拡大

化粧品セグメント 業績詳細

前年同期にODM事業大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事で減収減益となったが、コロナ禍の影響を受ける中、国内外ともに美容室向けは堅調に推移し、ODM新規案件受託増（7-9月期）となった事等から、7-9月期では増収増益となった

業績推移 単位：百万円



地域別売上高	新基準	新基準	増減額	増減率
	21.3Q	22.3Q		
日本	8,928	8,546	△382	△4.3%
海外	1,165	1,355	+190	+16.3%
合計	10,094	9,902	△192	△1.9%

※為替影響 +66百万円

前期比概要

1. 日華化学／第7波も含めコロナで美容室来店客数減の影響を受けたものの、主力ヘアケアブランドの拡販等により堅調
2. 山田製薬／前年の大口受託案件ブランドリニューアルによる一時的増産や消毒剤向け減少により減収減益も、3Qで新規案件受託増
3. デミコリア／コロナ感染拡大や物価高により美容室来店客数は減少したものの、主力ヘアケアブランド拡販等により増収増益

ROAは営業利益の増加により若干上昇し、ROEは前年の固定資産売却の影響により低下した
EBITDAは営業利益の増加により増加に転じ、自己資本比率は当期利益及び為替の影響により向上した

金額単位：百万円

指 標	2021年度 第3四半期	2022年度 第3四半期	増減率・額
ROA(営業利益)	5.5%	5.6%	+0.1ポイント
ROE(当期純利益)	14.3%	9.4%	△5ポイント
EBITDA	4,036	4,113	+76
(減価償却費)	1,859	1,798	△61
指 標	2021年度	2022年度 第3四半期	増減率
自己資本比率	45.9%	50.1%	+4.2ポイント

売上高 (+10.7%、化学品+13.7%、化粧品△1.9%)

- ・コロナ禍の影響は受けたものの、注力事業を柱に総じて堅調に推移した
- ・化学品／半導体ウエハ加工薬剤、先端材料向けなど、注力分野のEHD関連製品を中心に販売が拡大し、急激な円安の進行が続いた事と合わせて増収となったが、海外の繊維化学品分野で需要の落ち込みが見られてきた
- ・化粧品／山田製薬ODM事業で、前年上期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事等により3Q累計で引き続き減収も、新規案件が大幅増となった事等から3Qでは増収となった

増収

営業利益・経常利益／増益

親会社株主に帰属する当期純利益／減益

営業利益 (+9.2%、化学品+17.2%、化粧品△5.2%)

- ・急激な円安進行が続く主に化学品で利益が膨らんだ
- ・化学品事業は原材料高騰の影響を大きく受けたが、販売拡大や価格改定などによりカバーした
- ・化粧品は原料・資材高騰の影響をコストダウン等でカバーし、3Qの増収により減益額は2Q累計比で減少した

親会社株主に帰属する当期純利益 (△18.9%)

- ・特別利益が4.3億円減となった

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年度第3四半期(新基準)における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値として、増減率を表しております。

2. 2022年度 通期業績・配当予想

第3四半期累計期間の業績、第4四半期の事業展開各分野における市場環境、および前回予想発表時に比して大幅に円安となっている事などを踏まえて、売上高、各利益のいずれも前回発表予想に対し増加となる見込み
 中期経営計画2023年目標の売上高500億円、営業利益25億円に対し、特に営業利益で大きく前倒し達成見込み

	2021年度 実績 (新基準)	7月28日時点	10月27日時点	単位：百万円	
		2022年度 直近予想 (新基準)	2022年度 修正予想 (新基準)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	46,588	51,500	52,000	+5,411	+11.6%
営業利益 (営業利益率)	2,377 5.1%	2,500 4.9%	2,900 5.6%	+522	+22.0%
経常利益	2,706	3,000	3,500	+793	+29.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,595	1,800	2,200	△395	△15.3%
年間配当(円)	22	22	22	-	-

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を当連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度実績(新基準)における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

化学品セグメント及びその他の売上高及びセグメント利益を上方修正し、消去等のセグメント利益を下方修正した

単位：百万円

セグメント	2021年度 実績 (新基準)		7月28日時点 2022年度 直近予想 (新基準)		10月27日時点 2022年度 修正予想 (新基準)		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
	化学品	32,651	1,444	37,200	1,600	37,500	2,000	+4,848	+14.9%	+555
化粧品	13,324	2,734	13,500	2,550	13,500	2,550	+175	+1.3%	△184	△6.7%
その他	612	72	800	50	1,000	100	+387	+63.2%	+27	+38.0%
消去等	-	-1,874	-	-1,700	-	-1,750	-	-	+124	-
合計	46,588	2,377	51,500	2,500	52,000	2,900	+5,411	+7.3%	+522	+22.0%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度実績（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

3. 参考情報

商号：日華化学株式会社（証券コード 4463）

本社：福井県福井市文京4丁目23-1

創立：1941（昭和16）年9月15日

資本金：28億9,854万円

発行済株式数：1,771万株

決算期：12月31日

従業員数：連結／1,475名 単体／595名（2022年9月30日現在）

事業内容：繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所：東証プライム市場、名証プレミアム市場

Activate Your Life



この資料には、2022年10月27日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 戦略企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)25-4798

E-mail : matsushima@niccachemical.com